

## 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果 【目標全般】

### ◎見直し・改善（案）を具体的かつ明確に、市民が理解しやすい表現を！

- 【ACTION】欄において、「取組みの方向性」と「具体的方策」とが混同され、課題解決のための手段・方法が明確でないものが多く、評価しにくい。見直し・改善（案）は具体的に記載し、市民が理解しやすい表現を心がけていただきたい。
- 【DO】【CHECK】の結果が、どのように【ACTION】につながっているのかが見えにくいシートがある。また、新たに見えてきた課題がどこ含まれているのかも、わかりにくい。
- 全体的に文章が長い。市民に公開していくのであれば、箇条書きでまとめるなど、もう少し簡潔な表現を心がけていただきたい。
- 「検討する」とは、本来「行動に着手する」という意味であるが、市民から見ると「やるか、やらないか少し考えさせてもらう」というニュアンスに感じるため、表現を工夫すべきである。
- 【ACTION】に掲げた項目について、いつまでにやるという期限を決めていただきたい。

### ◎市民・地域との関わり

- シートの至る所に「地域」という言葉が出てくるが、具体的にどのような主体と連携・協力していくのかが不明確である。うっかりすると「地域」が風景化し、連携・協力のパートナーとして作動しない恐れがある。ターゲットを明確に表現していただきたい。また「市民」「地域」と表現している中には、地元企業も考慮すべきである。
- 全ての取組みを「自助」「共助」「公助」の観点で仕分けてみてはどうか。総合計画の目標達成に向けては、行政の力だけでは無理であり、市民・地域の力が不可欠である。市民・地域の役割、行政の役割をふまえて、今後の見直し・改善（案）を示していくと、市民も理解しやすいのではないか。
- 総合計画の策定・実践に関わっていた「高浜市の未来を描く（創る）市民会議」のメンバーの方たちが、市政運営にだんだんと関わりを持たなくなっていることが、市民意識調査の結果から感じ取れる。はじめの一步に参加した人や、これから参加する人が、子どもや、まち協・町内会などを通じて市政運営やまちづくりに関わりを持ち、興味・関心・理解を高め、少しでも意見を出したり、活動していただけるように望む。
- 限りある財源の中、常に厳しい状態だと思うが、工夫とアイデアを出し合い、市民の生の声を聞きサービス向上につなげていただきたい。
- まちづくりに携わっている者として、行政の思いに応えられるような協力をしていきたい。

### ◎総合計画の進行管理に関して

- 総合計画の仕組みも良く、進捗管理もうまくできている。「市民意識調査」や「みんなで目指すまちづくり指標」のデータも良い結果が出ている。計画行政が評価を繰り返しながら修正を加え、現場ではそれを加工・改良していくといったPDCAサイクルが定着してきているように感じる。

### ◎施策評価シートのとりまとめ方法

- 施策評価シートの作成にあたっては、目標や課題の共有、職員育成の観点から、若い職員も一緒になって、グループ内や担当部署との連携を図りながら取り組んでいただきたい。

### ◎市民意識調査に関して

- 市民意識調査の結果を分析し、その分析を今後の取組みに活かしていくという点からも、回収率を向上させるための方法を考えていく必要がある。
- 市民意識調査の結果で、男女の年代別の割合が分かると良い。

### ◎課題解決に向けた今後の取組みについて

- 要因分析の結果見えてきた課題の順位付けを行い、優先度の高いものから対策を講じていく必要がある。